

第15回新城市若者議会

令和3年3月22日（月）午後7時から午後9時
新城市議会 議場

開 会 午後7時00分

1. 若者議会議長あいさつ

○市園響議長 若者議会議長の市園です。若者議会条例第6条第1項に基づき、

本日の進行を務めさせていただきます。

ただいまから新城市若者議会市長報告を行います。

5月の第1回若者議会から私たちは、若者が活躍できるまちを実現するべく、様々な活動を行ってきました。8月の第6回の若者議会では、政策中間報告を行い、担当課の方と意見交換を行いました。11月には若者議会から市長へ答申し、令和3年度若者予算事業計画を策定いたしました。

本日は、11月に行った市長答申以降、4つの事業についての進捗状況を報告させていただくとともに、若者議会の運営方法等について報告させていただきたいと思っております。

また、報告後に時間をいただき委員から今年1年間の活動を振り返りさせていただきたいと思っております。

それでは、事業ごとの報告に移ります。

2. 報告

○市園響議長 初めに、移住定住委員会による「ビンゴde移住事業」です。発表者は、村松 里恵（むらまつ りえ）委員です。よろしくお祈りします。

○村松里恵委員 移住定住委員会の村松里恵です。

私たちは、「小さな子供を持つファミリー」「新城を好きになり、地域と関わってくれる人」「新城の魅力を発信してくれる人」そんな人が新城に増えてほしいという思いから、「ビンゴde移住」事業を答申しました。

答申後はビンゴの内容の詳細を、担当課との意見交換を含めて検討してきました。答申時に考えた、“地域のイベントに参加しても

らい地域とのつながりを作ってもらおう”“新城の観光スポットに行って楽しんでもらおう”

“SNSで新城市のいいところを発信してもらおう”という3つのテーマに沿った具体的な内容となっており、ビンゴに参加することで新城と関わることができ、新城の魅力をすることもできます。

ビンゴの報酬の詳細についても検討してきました。答申時は「新城の良さがわかり、新城と関わることのできるような贈呈品」をビンゴ1列達成ごとに贈呈すると発表させていただきましたが、会議を重ねる中で、より移住者の方の求めるものに沿うように、いくつかある贈呈品の中から選んでもらうべきだと考えました。

そこで湯谷温泉の宿泊チケットや特産物セットなど「新城市らしさ」というテーマの報酬を中心に、生活必需品セットやファミリーサポートといった移住者の「サポート」となるような報酬も用意し、私たちの思いを軸にしながらも移住者を引きつける内容も盛り込む形にしました。

さらに、ビンゴに使用するビンゴカードやPR用のチラシのデザイン案も検討しました。目を引くようなインパクトのある、POPなデザインにする予定です。

新城市は、年々人口が減少しており、若者の減少も続いています。周りの同世代では都会や近隣のもう少し大きな街へ出ていきたいと口にする人や、実際に出て行ってしまいう人が多くいるのが事実です。しかし新城は、自然が多く、子供がのびのびと育つ環境もあり、都会へのアクセスもよく、魅力的なところがたくさんあると私たちは強く感じています。そして私たちのように新城を愛し、未来を考える若者もこんなにいます。とても住みやすく「丁度いい田舎」である、この「新城市」にもっと人が増えてほしいと願っています。

この「ビンゴde移住」事業を通して新城にファミリー層を呼び、将来を担う子供達に

地元愛を持ってもらいたいです。そして、一緒に新城市を盛り上げていきます。

以上で移住定住委員会からの発表を終了します。

○市園響議長 ありがとうございます。自席にお戻りください。次に、駅前・商店街開発委員会による「感じてみりん！新城の桜プロジェクト」事業です。発表者は、黒田 成哉（くろだ せいや）委員です。

よろしくお祈いします。

○黒田成哉委員 駅前・商店街開発委員会の黒田成哉です。

私たちが新城駅に感じることは、「駅の雰囲気」の暗さ」と「人通りの少なさから感じる寂しさ」です。このままでは新城市の玄関口でもある新城駅がどんどん寂しく暗くなってしまわないかといったことです。

そうしたことから、この新城駅をもっと元気に明るくするために、私たち若者の視点で何かできないかと考えてきました。

そこで、駅前にあった桜を活用し、桜の思い出や歴史を残し続け、新城駅前が明るく元気になる3つの提案をしました。

1つ目は、駅前にあった桜の木を活用した看板作成です。この看板を作る理由は、桜の歴史や思い出が、これからの新城駅に受け継がれて欲しかったからです。答申後は色や具体的なデザイン等を考えていきました。「ようこそ新城へ」の文字の色をピンク色にし、桜の花びらもデザインすることでより華やかなイメージになる予定です。

また、看板の裏側にはより親しみをもってもらうため新城市のゆるキャラであるのんすけと桜の木を看板に活用していることがわかるように「桜の絵」をデザインします。

2つ目は、新しくリニューアルする新城駅前のロータリー芝生広場の活用です。答申では新たな桜の木を植える案を提案しました。地域の方からも前向きにご協力してくださる

と話をいただいたので「思い出を繋ぐ」ということを重要視し、より良い他の案がないか検討中です。

3つ目は、看板披露と私たちの活動報告イベントです。イベントを行うことで、より多くの方に新しい看板の存在を知ってもらうことができます。答申以降は、イベントのタイムスケジュールや内容、イベントを告知するポスターデザインを検討しました。イベントの内容としては、私たち今期のメンバーから事業の経緯について紹介をし、看板を披露します。最後には記念撮影の時間を設け、地域の方々と共に新たな新城駅前のスタートを切りたいと考えています。そのほかにテーブルカットやフォトスポットの設置、可能であればドローンによる撮影など、イベントをより盛り上げることができるものを用意する予定です。イベントの告知は、広報ほのかやポスターなどを活用していきます。

また、イベントに参加できなかった人のために、当日の様子をティーズで放送していただく予定です。

私たちが新城駅前に今まで感じていた暗さや寂しさが、この桜を使った提案事業を行うことで、新城駅が明るく元気になってほしいと考えました。私たちは、植えられていた桜を再利用することで新しい世代に歴史をつないでいきたいです。そして、新城駅をもっと人の活気が集まる駅にし、本工事の計画の際には市民の声を反映させた誰もが使いやすい駅になるようにしてほしいです。

駅前を多くの市民の思いを繋ぐ場所にすることが目標です。私たちは今年度の若者議会の任期が終了しても、この政策に関わり駅前商店街をより良いものにできるよう協力していきます。

以上で駅前商店街開発委員会の発表を終わります。

○市園響議長 ありがとうございます。自席にお戻りください。次に、国際交流委員会

による「PON×2 Bonds事業」です。発表者は、伊禮愛実（いれい あいみ）市外委員です。よろしくお願いします。

○伊禮愛実市外委員 国際交流委員会の伊禮愛実です。

私たちは答申後、事業名「PON×2 Bonds」に込められた“人々の憩いの場所を作る”のために、小イベント、大イベントの内容について、より細かい部分まで話し合いを重ねました。

まず、6月に予定していた料理をテーマとしたイベントですが、コロナウイルスの影響を考慮し内容を変更しました。同じ6月に国際交流協会防災イベントを企画しているとのことなので、これを小イベントの一つにします。実行委員はこのイベントの準備段階から参加し、イベントをどのように行うのか、何か注意点は無いかな等を学び、8月の小イベントの企画開催に生かしていきます。6月以外の小イベントは答申通り、「出会う・繋がる」をテーマとしたイベントを大イベント前に、そして「深める・継続する」をテーマとしたイベントを大イベント後に行います。

大イベントでは、「触れる・学ぶ・理解する」をテーマに、異文化に触れてもらうことで、国籍や言語による壁をなくすきっかけを作ります。ここでは、市内在住外国人の中でもより人数が多いブラジル・ベトナムなどの国のブースを出展し、彼らの文化をより知ってもらえるようにします。

大イベントでは全部で7個のブースとステージ発表を予定しています。

食べ物ブースでは市内や近隣の市の外国料理店に協力していただき、7カ国の料理を提供します。

文化ブースは、様々な国の遊びを実際に体験出来る場所にします。実際に体験することで、より身近に感じる事が出来るのではないのでしょうか。また教える側として豊橋技科大の

留学生を招くことも考えています。

衣装ブースでは、衣装を身につけて肌で文化を感じ、写真も撮れるようにフォトスポットも設置します。日本の着物、ベトナムのアオザイなど7カ国、16種類ほど準備します。ステージも設置し、合唱やよさこいなどを市民団体の方々に発表していただきます。また、椅子を設置し料理を食べながら、ステージ発表を楽しめるようにします。

市民団体の方々には応募形式で、市民団体ブースへの展示ができるようにします。

国際交流協会ブースでは、展示や動画、説明を通して、国際交流協会についての紹介を行います。

若者議会ブースでは、7期メンバーが市民の方と直接話せる場所として活用しようと考えています。

私たち国際交流委員会は、市内に住む外国人と日本人が、お互いに必要とし、助け合っていけるような市にしたいと思い、この事業を考えました。来年度に行われるイベント、交流によって築かれたものを絶えず継続して行きたいと思っています。現在、国際社会となっている日本ですが、未だに大きな壁があると私たちは感じています。私たちが企画したイベントが新城市の外国人と日本人が繋がる小さな一歩となり、その一歩が発端となって大きな壁をみんなで壊すことができたらいいなと強く思っています。将来、新城市がどのだれからも愛される市となることを心から願っています。

以上で国際交流委員会の発表を終わります。

○市園響議長 ありがとうございます。自席にお戻りください。次に、観光・PR委員会による「家族でしんしろってかん？事業」です。発表者は、森下 華（もりした はな）市外委員です。よろしくお願いします。

○森下華市外委員 観光・PR委員会の森下華です。

私たちは、心に残るような体験は歳を重ねても色褪せない大切な思い出となり、大人になってから旅行先を決める際にもそのような子どもの頃の思い出を参考にしていることに気づき事業を答申しました。

この事業を通して、都会では味わうことの出来ない新城市ならではの自然や、それを活かした体験をしてもらうことで、訪れた子どもたちに新城市の良さを知ってもらい、楽しい思い出を心に残し、新城市に再び訪れるきっかけとなって欲しいと思います。

新城市の強みを活かした体験イベントは、夏と秋に各1回、1泊2日のテント泊で行います。11月の答申以降は、全体を通して達成感が得られるようなポイント制のミッションの詳細を検討し、子供が全力で楽しめるようなイベントになるよう考えました。

夏コースの自然と触れ合うことを中心としたプログラムでは、自然と触れ合うミッションをクリアすることでバーベキューのデザートを獲得できます。そしてバーベキューではメインのスウェーデントーチの準備をし、各自で点火してもらいます。テント泊をした2日目、第5期で提案されましたが新型コロナの影響で実施できなかった、新城市で採掘できるオパールを活用した「新城でオパろう」事業を希望者のみオプションで体験していただこうと考えました。

秋コースの自然の中で体を動かすことを中心としたプログラムでは、宝探しミッションとし、体を動かしてもらいます。

イベントのPR方法である、ポスターやチラシ、SNSに使用できるデザインやキャッチフレーズの案も考えたので参考にしてほしいです。

私達は、世代に合わせた周知が必要だと思いましたが、その中でも「子どもたちの心に残るような事業にすること」を大切にしてきました。そのためには、新城市の魅力を実際に体験し、感じてもらうことが重要だと考え

ています。今回はその魅力の一つである自然をキャンプという手段で体験してもらい、心に思い出を残そうと思いました。そして、その思い出がいつの日か宝石のように光り輝いて、新城市への永久パスポートになればと思います。

以上で、観光・PR委員会の報告を終わります。

○市園響議長 ありがとうございます。自席にお戻りください。最後に、若者議会運営改善プロジェクトチームです。順番は、「会議の効率化」「活動をもっと広めたい」「若者議会のステップアップ」発表者は、犬塚百花合（いぬづか ゆかり）委員、多田 琴香（ただ ことか）メンター、山本 彩生（やまもと さいき）委員です。よろしく申し上げます。

○犬塚百花合委員 運営改善プロジェクト会議の効率化チームの犬塚です。

会議の効率化では会議会場参加とオンライン参加が混在している時、全員オンライン参加の時、その他の3つテーマに絞り、それぞれの委員会で試してみた結果を交えながら話し合いを進めてきました。

まず初めに、会議会場での参加とオンラインでの参加が混在している時についてです。オンラインでの参加者は会場の雰囲気を読みづらく、意見を言うタイミングが難しいとの意見が出ました。

また、会場で議論が盛り上がっているときに上手く議論に加われず、疎外感を感じるとの意見もありました。そこで、会場を繋ぐためのパソコンとは別に、オンライン参加者の状況を確認できるパソコンを用意し、事務局が常に確認することで、オンライン参加者へのフォローを充実させることを提案します。

次に、今年度多かった全員オンラインでの会議についてです。対面時のようにホワイトボードを活用することができず、出た意見な

ど、共有がしにくいという意見が出ました。そこで私たちからは画面共有機能の活用を提案します。これは強制ではなく基本的には各委員会に活用方法は任せますが、前回の会議内容の確認時や、何かを決める時、会議の最後に決まったことを確認する時に活用していただければと思います。多くの意見を出し合う時は画面共有は使わず、出し終わった後に使うことをお勧めします。

また、発言のタイミングが難しい時は、リアクションボタンで意思表示し、ファシリテーターが優先的にあてていくのがいいと考えます。ボタンが押しにくい時や何名か重なってしまう時はチャット機能を活用してもいいことにします。発言回数が少ない人もファシリテーターがあてていくよう心掛け、事務局さんがサポートに入ることで、全員からの意見をしっかり拾えるようにします。

3つ目は会議全般についてです。それぞれの委員会の日程を調整する際、普段使っているLINEの日程調整機能を使っています。

この機能では○×△で回答しますが、委員ごとに○と△の捉え方が違っていたため、調整して日付を決めても遅れてくる人が多く、会議開始時間に少数しかいないなどがありました。このことから、○はフル参加、△は遅刻や早退などでコメント欄にどういった意味か必ず入力するなどルールを定め、ルールに従って回答するよう周知したらどうでしょうか。遅れるけど出席できる者が多いときは、会議開始時間を遅らせるなどの対応も事前にできます。

会議の進行については、会議の最後に「まとめを書いて共有する人」「ブログを書く人」などが決まると対応に苦慮するときがあったため、最初に決めてから会議を始めたほうが良いと考えます。

また、意見が出づらくなったときなどは、5分程度の休憩を挟むことも必要だと感じま

した。

最後に、今回の会議までに事例を調べたり、意見出しをする、いわゆる”宿題”に関してです。特に若者議会が始まった当初では、間違った意見を出してしまうかもしれないといった不安や、どうやって意見を出したらいいのか分からないと思う委員が多くいました。特に1番目に投稿するのは勇気がいります。しかし、意見が人それぞれ違うのは当たり前です。「みんな違って、みんないい」を合言葉に、多くの意見を事前に出し合って会議に臨んでほしいです。提出方法も様々な形でやってきましたが、見返しやすいLINEのノート機能に統一することを提案します。

以上で、会議の効率化チームからの報告を終わります。

○多田琴香メンター 運営改善プロジェクト活動をもっと広めたいチームの多田琴香です。よろしくお願いします。

私達は、若者議会の活動をもっと広め、人々に若者議会についてより知ってもらうための改善策を考えてきました。そこで、私達の中で挙げられた3つの問題点をふまえて改善策へと繋げていきたいと思えます。

1つ目の問題点は、ブログの意識低下についてです。ブログを書く際に明確なルールがなかったため、書き方に戸惑うことがありました。そこで、ブログの質向上に繋がるようにガイドライン・見本を作成していただきたいです。また、SNSを活用して委員同士で拡散していくように、自ら発信する姿勢も大事であると考えます。

2つ目は、ターゲットに合った周知ができていないということです。私達と一緒に若者議会に参加してほしい学生・社会人、若者議会を応援してほしい市民の方の2つの層に分けて周知方法を考えました。

まず、学生に対してはワークショップや出前講座を行い、委員の生の声を聞いてもら

他、実際に若者議会の会議を体験してもらうことが大切だと考えました。また、学校にポスターなどを掲載することで、視覚的に情報が入ってくるような発信の形もとっていくべきだと考えます。

次に社会人についてです。まず、市内の企業へ若者議会の情報を発信していただきたいです。その中で第5期若者議会の事業によってできた企業との関わりも活用すべきだと考えています。また、社会人にとっても会議は参加しやすいということがわかるようにオンラインでの参加もできる旨を発信、またメンバーの体験記も発信することで、様々な年代の若者がどのように若者議会とプライベートを両立しているかがわかり、自分事としてイメージしていただくことができます。そして、報酬については大切な要素なので発信する必要がありますが、報酬目的で若者議会に参加してしまうと会議の質が落ちてしまうことが懸念されるため、大々的とまではいかないようにPRをしていただきたいです。さらには写真や動画を用いたり、まちな出向いて青空会議を行うなど実際の会議の様子を見てもらうことも大切だと考えました。

最後に、市民の方に対しては、広報誌やティーズを活用することに重きを置くべきだと思います。親世代の方には、若者議会は誰もが参加できることを伝え、子ども達へ後押しや参加を勧める動きをしてほしいです。そのためにも各委員の参加した背景や成長した部分などの要素についても発信していくべきだと思います。

3つ目は、委員自身が若者議会の成り立ちや過去の政策など深いところまでよくわかっていないということです。若者議会を知るための仕組み作りとして、クイズ大会などで楽しく若者議会について知る機会を設けたり、キャッチコピーを作成することで、若者議会をわかりやすく知ったり、伝えることも大切だと考えます。さらに、委員同士で親睦を深

めることや、責任感をより持てるようにワークショップや出前講座では委員自らが発表することが大切だと考えました。

以上です。来期以降の若者議会ではより積極的な若者議会の発信をお願いいたします。

○山本彩生委員 運営改善プロジェクトステップアップチームの山本彩生です。よろしくお祈りいたします。

私たちからは大きくわけて3つ、提案させていただきます。

1つ目は市民の声を取り入れるというものです。市民の声の取り入れ方にもいくつか方法があります。まず、市民の方がどういうことが気になっているかを拾うため、若者議会がはじまってすぐの5月頃、ピアゴなどの人がたくさん集まる場所に出向き、意見を聞くべきだと考えました。

次に、政策を検討している分野に精通している人や団体との連携をとるというものです。政策を検討していくうえで、より専門性が高い意見が欲しいと感じることが多々あります。そこで、担当課だけでなく知識がある市民や専門家の方を頼り意見交換をするべきだと考えました。

最後は、自分たちが考えた政策の内容や意図を実際に自分たちの足で市民の方に伝えようというものです。自分たちが出向くことでより多くの思いが市民の方に伝わると思いますが、場所はピアゴなどの人がたくさん集まる場所、時期は答申後、政策案がより具体的になった2月頃に行うと効果的だと考えました。

2つ目は、市内にある小中学校へ向けてアプローチを行うというものです。現役若者議会委員が小中学生に説明をし、それを通じて興味を持ってもらい1人でも多くの若者に将来若者議会に関わってもらいたいという思いからアプローチをするべきだと考えました。小学生向けには新城に興味を持ってもらえるような内容、中学生向けには自分たちが考え

たことを実行できる楽しさを実際に体験できるようなワークショップを行っていただきたいです。中学生議会とも引き続き連携をしていただき、これとは別に、先生にもアプローチを行い授業などで取り上げてもらうことも重要だと考えました。

3つ目は若者議会のOBOGとの連携をとるというものです。具体的には現在担当課と行っているような意見交換をOBOGとも行います。事務局とともに現役の委員とOBOGの仲をさらに深められるようなものを企画していただきたいと考えています。若者議会を経験している先輩であるOBOGから意見を貰うことで効率だけでなく政策の質も上がり、さらに交流が生まれることで委員とOBOG間の関係が構築され連携しやすい環境も生まれるのではないのでしょうか。

また、OBOG同士でも連携がとれるよう定期的に集まる機会を作り、今後の若者議会の在り方について話し合う場を設けていただきたいです。

ステップアップすることで、若者議会をさらに多くの市民の方に知ってもらうことができ、知ってもらうことで若者議会の活性化に繋がります。新城市がもっと活気のあるまちになるはずです。

以上で運営改善プロジェクトステップアップチームからの報告を終わります。ありがとうございました。

○市園響議長 ありがとうございました。自席にお戻りください。

○松下まちづくり推進課長 それでは、活動報告等も終わりましたので、若者議会から市長に提言を行いたいと思います。

3. 運営改善に関する提言

○市園響議長 令和3年3月22日。新城市長穂積亮次様。新城市若者議会第6期議長市園響。提言書。若者議会にお

ける調査審議がより充実し、「若者が活躍するまち」の形成を推進するため、若者議会の運営に関する事項について下記のとおり提言します。

1. 会議の効率化について。

会議会場参加とオンライン参加が混在している場合、オンライン参加者は場の雰囲気が読みづらく意見が言いづらいため、会場全体を繋ぐ端末とは別に、事務局がオンライン参加者の状況を常に確認できる端末を用意するなど、特に配慮して会議を進めていただきたい。

全員がオンライン参加の会議の場合、ホワイトボードなどが使えないことから議論の経過が共有しづらいため、オンライン会議システムの画面共有などの機能を有効に活用して会議を進めていただきたい。

会議の日程を調整する際には、回答項目のルールを統一して周知していただきたい。

会議を進行する際には、最初に「当日の役割を決めて確認すること」を徹底するとともに、「状況に応じた休憩」を設けることも考慮していただきたい。

次回会議までの事例調査や意見提出については、SNSの機能を活用するなど共有方法を統一していただきたい。

2. 活動内容の広報について。

委員等が自ら発信することへの意識を改善することが必要であることから、若者議会のSNSについて活動初期時点で周知し、自ら情報を拡散するよう促していただきたい。

ブログ記事を投稿する際の参考となるよう、「ブログのガイドライン」を作成していただきたい。

委員等が自ら発信するためには、若者議会の成り立ちや位置づけ、過去の政策や実施されるまでのプロセスを知ることが重要であることから、若者議会についてしっかりと学ぶ機会を設けていただきたい。

学生、社会人又は若者以外の世代などター

ゲットにあった周知を行っていただきたい。

3. 若者議会のステップアップについて。

より多くの声を反映し、提案する政策の質が高まるよう、多くの市民の意見を拾いに行く機会を設けていただきたい。また、政策内容の分野に関して精通している方や団体とも意見交換ができる機会もあるとよい。

1人でも多くの若者に将来若者議会へ携わってもらうため、市内学校でのワークショップの開催やゲストティーチャーとしての授業参加、中学生議会へのサポートを継続していただきたい。

ノウハウやアドバイスを伝えられる機会を設けられるよう、委員任期終了後も若者議会に関わる仕組みを構築していただきたい。

現役委員とOBOGとの連携だけでなく、OBOG同士でも連携が取れるよう定期的集まる機会を設け、今後の若者議会のあり方などについて話し合う場を設けていただきたい。

4. 1年を振り返って

○市園響議長 続いて1年の振り返りを行います。各委員順番をお願いします。

初めに、黒田成哉（くろだ せいや）委員をお願いします。

○黒田成哉委員 私はこの1年若者委員会を通じて、いろいろなことを学びました。

もともと私自身、積極的に発言することがすごく苦手だったんですが、この若者議会に入ってから、積極的に発言することができる機会が増えました。

また、今年1年通して私が所属していた駅前商店街開発委員会では、いろいろな壁に当たってきました。まず、工事が暫定であるということから、とても政策を検討するのも時間をとってしまいました。その中でも自分が委員長を務め、なかなか大変なことも多かったのですが、委員の皆さんや事務局さん、

メンター市民さんの方からの多大なるフォローをいただきながら、この1年間を過ごしてきました。

最初、委員長やるとなったときに、本当に自分でこれから先委員をまとめていけるのかな、本当に自分で大丈夫かな、というすごく不安なことがありました。しかし、そこから先、皆さんからフォローをいただいたり、事務局さんからもフォローいただいたおかげで、苦難を超えて今この場に立っていると思っています。

私自身が仕事をしながらであったため、たびたび委員会に参加ができないこともありました。ですが、その中でも他の委員メンバーの方がしっかりと進めてくれたおかげで、次来たときでも、すぐ前回の議論の内容などが頭に入ってきて、こうすればいいな、こういう考え方をすればいいんだという考え方を持つことができました。そういった点から普段から積極的に話さない私でも、この若者議会を通して発言すると“何でも伝わるんだ、発言しないと変わらないんだ”ということを改めてもらいました。

この1年間の経験が現在私が仕事にしていることでもかなり活かされていると思っています。

この経験を来年からも、いろいろな場所で生かし、もっといろいろな経験が積めるように頑張っていきたいと考えています。

この場をもって、委員の皆様にも、また市民メンター、事務局さんの方にお礼を申し上げます。ありがとうございます。なかなか自分自身がちょっと成長するのに時間がかかったなという点がありましたが、この1年間委員長をやり、いろんな経験を通し、さらに自分のステップアップにつながったのではないかと感じています。この経験をさらにもっと深くし、これからの自分の生活にも活かせるような、そんなよい経験にしていきたいと思っています。

以上で終わります。

○市園響議長 ありがとうございます。次に古賀咲菜（こが さきな）委員です。よろしくをお願いします。

○古賀咲菜委員 古賀咲菜です。私は新城のどんなところが好きなんだろうか、これから新城を知るどこかの誰かに何を伝えたいのだろうか。

私は、観光PR委員会で政策を考えると、この二つを常に意識していました。新城の発展ってなんだろう。新城をもっと良くするって何だろう。テーマパークができて、人がたくさん来ること？大きなショッピングモールができて、綺麗なビルがたくさん建つこと？もし、そうやって発展していくとするならば、今ある新城の自然はどうなるのだろうか。今ある人と人との繋がりはいくさんの人に流されて、消えていくのだろうか。それって、本当に発展してるって言うっていいの？私は、新城市には向かう場所でありながら、戻る場所であってほしい。自然と歴史と人とが、緩やかに溶け合ったすてきな場所になってほしいと思っています。というより、新城の魅力はそこだと思っています。だから、私はもっとたくさんの人に新城を知ってほしいです。

観光PR委員会でキャンプ事業を考えられたことをうれしく思っています。この事業には、私が思う新城の好き、他のメンバーが思う新城の好きが詰まっています。参加した方の大切な思い出となることを願っています。

私は、若者議会で、自分とは違う面で違う立場の方と話をすることで、様々な意見や考え方を学びました。高校生の私にとってはとても貴重で大切な経験です。会議の中では、この言葉が違ったな、もっとこういう言い方にすればよかったと、自分の知識のなさや考え方の甘さを反省することもありました。そして、自分と同年代の子の意見を聞き、刺激を受けることも多かったと思います。

私はこれで高校3年生、受験生になります。地域政策や都市情報を勉強できる大学に進学するつもりです。1年間の活動を通して、若者議会で学んだこと、経験したことは、私にとってとても大きなものになりました。

本当にありがとうございました。

○市園響議長 ありがとうございます。次に松井暖実（まつい あつみ）委員です。よろしくをお願いします。

○松井暖実委員 私は国際交流委員会の委員として、1年間活動してきました。若者議会の活動を通して、私は、2つのことができるようになりました。

1つ目は、自分の考えを相手に伝えることです。若者議会に入る前までは、自分の意見を相手に伝えることが苦手でした。初めの頃は、発言するのに戸惑ってしまったり、自分から話せなかったりしました。ですが、会議を重ねるうちに、発言に対する苦手意識が減り、自分から発言することができるようになりました。また、自分の考えを共有することの楽しさも知ることができました。

2つ目は、知らないことに興味を持つという考え方です。私は、自分の世界を広げたい！という思いもあって若者議会に応募したので、知らないことへの怖さはあまりありませんでした。しかし、若者議会の活動していく中で、私の想像以上に知らないことがあり、だんだん、知らないことに対して、また知らないことだなぁと不安に思うようになりました。

私は、この1年間で、自分でわかるくらい成長することができました。そして、新しい目標も2つできました。それは、外国語を習得することと、海外に行くことです。1年間、国際交流委員会として活動をしていく中で、外国の方と話せるようになりたい。海外に行きたい。という思いが強くなりました。私がいずれこれらを目指してできたきっかけは、国際交流

委員会のメンバーがいたからです。国際交流委員会には実際に2カ国語話せる子や、海外に住んでいる子、外国語を勉強している子がいます。1年間一緒に活動をしていく中で、かっこいいなあという憧れから、私も他の委員の子達のようにになりたいという目標に変わりました。

もし、若者議会に入っていなかったら、憧れで終わっていたと思います。成長する機会だけでなく、新しい目標まで見つけることができた、若者議会に入れて本当に良かったです。

ありがとうございました。

○市園響議長 ありがとうございました。次に木戸ゆめ(きど ゆめ)委員です。よろしくをお願いします。

○木戸ゆめ委員 駅前商店街開発委員の木戸ゆめです。よろしくをお願いします。

2020年、この年は若者議会があったからこそ充実した1年であったと言えます。コロナ禍の中高校1年生となった私。友達とのやり取りもLINE上のみ。普段喋るのも家族だけ。そんな生活を約2ヶ月間過ごしていました。その中でスタートした第6期若者議会は私にとって大きな救いの手でした。

慣れないオンライン会議で初対面の人と話すことは緊張と不安で普段とは違った疲れがありました。コミュニケーションをとれることの楽しさ、自分の意見が言える場があることへの喜びがありました。当たり前だったことが当たり前にならなくなってしまった時期に大切なもの気付かされました。そして、だんだんと「今日、若者議会一！」と、家族に言うのが楽しく感じていました。

若者議会へは「新城市のことをもっと知りたい」「自身のスキルアップを図りたい」そう思い、参加をしました。新型コロナウイルスの影響で、例年通りの活動というものは体験出来なかったわけですが、今後主流になっ

てくるであろうオンライン会議というものを、高校生である今の時期に体験し、課題を見つけ、改善策を練る。オンラインというものに重きを置く話し合いが出来たのも今年ならではだと思い貴重な体験ができたと感じました。

1年を通して、「新城市のことをもっと知りたい」という気持ちがより深まりました。知らないことがたくさんあり、発見する度にいつもとは違った見方ができているような気がし、嬉しかったです。また、市長答申など人前での発表は自分の大きな自信にもなりました。これは若者議会をやったからこそ出来た経験であるし、誰にも奪われない最高の力だと私は思います。そしてなにより、素敵な仲間に出会えたことがとっっても大きな喜びです。ここにいる仲間は目標とする人憧れる人で溢れています。慣れたように話を回す姿、自身の意見を相手が理解しやすいようにまとめて、話す姿勢は私の今後の目標です。

若者議会を支えてくださっている事務局さん、メンター職員の方々、送り迎えをしてくれた親たくさんの人に支えられているから体験出来た1年だったと思います。自分の住んでいるこの新城市に「若者議会」があって本当に良かった。そして参加して良かった。そう心から思えるような有意義な時間でした。

1年間ありがとうございました。

○市園響議長 ありがとうございました。次に村松里恵(むらまつ りえ)委員です。よろしくをお願いします。

○村松里恵委員 村松里恵です。

直前まで何を話そうかなとすごく考えていたのですが、前の高校生の子たちが話してくれたことが本当に感動していて、すごく涙がでそうな気持ちだったんですけど。

私も高校一年生の時に若者議会を知って、当時15歳だった私も今年で成人を迎え、20歳になりました。二期のときに参加して、

議長として1年間やらせていただいて、すごく貴重な経験ができたと思ったとともに、まちづくりの楽しさをそこで知ることができました。「市について考えることってこんなに楽しいんだ」とか、「人と議論することってこんなにわくわくすることなんだ」というふうに心から思うことができました。

それからいろいろな市民活動にも携われさせてもらったのですが、そのときに、「若者議会って市民にそんなに知られてないんだよ。何やってるか、あんまり伝わってないし」と言われてしまいました。その時、私たちの思いって伝わってないんだな。と思い、もどかしく感じたのと悔しさを感じました。当時まだまだ心が弱かった私は、その言葉を聞いて二度とまちづくりには参加したくないと思いました。

ですが、そんな私が今ここで若者議会の委員として立っているのは、若者議会の委員のみんなのおかげです。

二期三期はメンターとして関わっていましたが、四期五期は、ただの一市民として若者議会を外から見ているだけだったのですが、外から見ていて若者議会のメンバーがすごく悩みながらも、市のことをまっすぐに考えて、新城市のための政策を考えている。という姿に勇気づけられて、やっぱり私ももう1回、まちづくりに携わりたい。と思い、若者議会ラストイヤーと称して今年参加していました。

6期に参加して思ったことは、「やっぱりまちづくりは楽しい」ということ。と「議論すること。市の政策について考えることってやっぱり楽しい」ということでした。私が委員として参加していた移住定住委員会は、すごく難しいテーマでなかなか議論が進まないことも多かったのですが、「まちがどんなふうになってたらいいんだろう」とか「こういう人が来たら、新城ってもっとよくなるんじゃないかな」と想像するのがすごく楽しくて、最終的にビンゴde移住という若者らしい

政策ができたんじゃないかなと思っています。さっきのさっきまで「若者議会ラストイヤー、もう、若者議会には携わず、市民として、見守ろう」と思っていたんですが、みんなの熱い思いだったり、「若者議会に参加してよかった。本当に、心から持ってます」という言葉を聞いて、やっぱりまだまだ若者議会に携わっていきたいなというふうに思いましたので、また来年も何かしらの形で使われたらなというふうに思います。

1年間ありがとうございました。

○市園響議長 ありがとうございます。次に鳥居優衣（とりい ゆい）委員です。よろしくをお願いします。

○鳥居優衣委員 高校一年生の鳥居優衣です。私が、若者議会に入ろうと思った理由は、新城市のために活動したり、もっと新城のことを知りたいと思ったからです。

私は駅前商店街開発委員に入りました。新城駅はよく利用するし、桜の木がなくなってしまったことに対して、私も新しい政策と一緒に考えたいと思いました。駅前の雰囲気をもくするのために、お花を植えたり、イルミネーションをつけたりなど色んなアイデアを出し合いました。管理や費用の面で上手くいかなかったり、本当にやりたいことが何なのか分からなくなったこともありました。何度も話し合っ、何度も考え直しました。新しい政策を考えることの大変さを実感しました。

しかし、委員のメンバーと仲良くなって話をしたり、笑いあったりするうちに絆が深まり政策を作りあげることができました。

また、初めてブログを書いた時は何から始めて、どんなことを伝えればいいのか難しかったです。でも委員会を通して何回も書いていくうちに読む人に伝わりやすいようその日のあった出来事を書くのが楽しくなっていました。

今回初めて若者議会に入って、最初はただ

聞いているだけで自分から意見を言うことが出来ませんでした。ですが周りの人に助けられたり、会議を重ねていくうちに、自分の意見を言うことに自信ができました。若者議会を通して自分の中で成長できたことがたくさんありました。また、新城市に対して様々な意見を持っている人がいて、私はもっと新城のことが好きになりました。

政策を一から考えることの大変さ、より良い新城市になるようにたくさんの人が関わっていることを知ることが出来ました。

1年間ありがとうございました。

○市園響議長 ありがとうございました。次に石内輝（いしうち ひかる）委員です。よろしく申し上げます。

○石内輝委員 石内輝です。若者議会のメンバーの中ではぴかるんという愛称の方がお馴染みだと思います。

まず初めに、僕が若者議会に立候補したり、きっかけをお話したいと思います。私は、昨年度の第5期から若者議会に応募しようと考えていました。自分が住む新城についてしっかり考えてみたい。新城市の自然が好きだから、もっと新城に深く関わりたいという思いがありました。しかし、当時は高校入学が決まったばかりで、高校生の忙しさというものが未知数でありました。その結果、「若者議会と高校の両立上手くできるのかなあ」と、自分自身の弱さが出てしまい、第5期への応募を断念してしまいました。しかし、高校1年間の生活を通し、若者議会との両立、また、若者議会経験者から、議会について話を聞き、「よし、今度こそソリベンジだ。」と思い、この第6期に応募しました。

私が所属する移住定住委員会は、とても難しいテーマです。それがゆえに、何度も何度も、壁にぶつかりました。「移住してきて欲しい人ってどんな人だろう」「その人を呼ぶにはどんな政策がいいんだろう」「ビンゴっ

て出たけど、中身は？報酬は？」何度も何度も壁にぶつかっては振り出しに戻りそうに、その繰り返しでした。

そして、自分自身も、積極的に意見を言うことができず、せっかく持っていた意見も、そのまま言えずに終わってしまったということもありました。しかし、会議を重ねる中で、勇気を持って、自分の意見を出してみよう。と発言した時、「ぴかるんの意見めっちゃいいじゃん。聞かれんの意見で。話が進んだよ。」という言葉をいただき、それが力になりました。そこで得た自信は、他の日常生活でも繋がったと思います。

例えば、私は後期生徒会長に立候補しました。それもこの若者議会で自信をもらえたからこそだと思います。また私は陸上部に所属し、常に部活動が遅くまで行われることもあり、会議にはリモートでの参加や、電車の中で聞くのみでの参加などがありました。それでも、しっかり自分の中では、会議に参加できて、自分自身大きく成長することができたと、この第6期若者議会を通して感じています。

来月から私は高校3年生、受験生となります。受験生、また未知の忙しさがあると思います。なので、第7期若者議会は、まだまだ悩んでいるところです。しかし、新城市を思う気持ちはずっと変わりません。新城市の自然が好きだから、新城市の人が好きだから、これからも、例え若者議会を続けられなくても、新城市について考えることは絶対にやめたくありません。

学校とは違う第2の学び舎“若者議会”、ここで得たことは、この先もずっと活かされていくと思います。いえ、活かしていきます。若者議会のメンバー、担当課の皆様、支えてくれた皆さんにお礼を申し上げたいと思います。

ありがとうございました。

若者議会に参加することを決めて本当によ

かったと思います。あの日の自分の決断は間違いじゃなかったと確信しています。以上で終わります。

ありがとうございました。

○市園響議長 ありがとうございました。次に犬塚百合合（いぬづか ゆかり）委員です。よろしくをお願いします。

○犬塚百合合委員 犬塚百合合です。私は普段2人の子供を育てながら仕事をしています。

私が若者議会に入ったきっかけは、家に手紙が届いたからでした。親として知らなければと思いつつながら、行政について何も知らない私は、ここに行けば何か変わるんじゃないか。自分の世界を広げることができるのではないかと思いつつ、参加を決めました。若者議会に参加してすぐは、どういう流れで政策ができるのか、具体的に想像することができず、意見が言いにくいことも多くありました。

私たちの委員会は、空き家活用、独身男性に向けての事業。転職を考えている人に向けての事業。移住を考えるきっかけを与える事業。移住をしてきてくれた人に対しての事業など、多くの意見が飛び交い、まとまるまでに時間がかかりました。

ビンゴde移住という事業に決まってからも、あらゆることで、意見に食い違いがあったりとか、悩むことも多くありました。自分より若い人と関わる機会が減っていた私にとって、高校生のフレッシュな考えを聞く機会はとても刺激をもらえるいい機会でした。いろいろな人と関わっていく中で、他人との価値観の違いを改めて感じたりもしました。他の委員会のメンバーから、社会人としての意見を求められたり、親として母親目線での意見を求められたり、いろいろな人からどう思う？と言われることについて、「自分の意見でいいのでもいいのかな」という思いも、ありながらも頼ってもらえることに嬉しさを感じました。

委員会の中では、ファシリテーターを経験

させていただきました。短い会議の中で、多くの意見を集め、まとめることがどれだけ難しいのかを、実感しました。思っていることは言ってみる。そこから意見が広まっていき、よりよいものを生むことができるということも知りました。若者議会の活動を通して、自分の駄目なところ、いいところを改めて知ることができました。そしていろいろな人と話し、関わりを持つことで、自分の価値観を広げることができ、新城についても知ることができ、行政についても知ることができました。若者議会に入って、若者議会に入る前、こうなっていたらいいなと思っていた自分になれたと今感じています。最近、周りからも成長したねとよく言われます。ですが私はまだまだ成長できると感じています。

来年度は、委員としてではなく違った目線、違った立場で、若者議会との関わりを持てたらなと考えています。これからは積極的にいろいろなところへ参加していき、どんどんどんどん成長していこうと思っています。こういった場で、話せることも若者議会に参加する特権といいますか。自分の成長できる機会だなというふうに感じています。

約1年間、他の議会の活動を通して、とても自己成長できたと感じているし、これからも、まだまだ、成長していきます。

ここにいる委員のメンバー、メンターさん。事務局さん。皆さんのおかげで私は成長することができました。

1年間ありがとうございました。

○市園響議長 ありがとうございました。次に矢口誠一郎（やぐち せいいちろう）委員です。よろしくをお願いします。

○矢口誠一郎委員 第6期若者議会、観光PR委員会、矢口誠一郎と申します。

私はちょうど1年前、名古屋市からこの新城に移住して参りました。

その時に、ふと若者議会の募集のポスターを

見て、面白そうなのがあるなと思いチャレンジしてみました。ただ、勢いでチャレンジしてみたものの、「いやあ、僕って新城来たばっかなのに大丈夫かな」「新城のこと何も知らないけど大丈夫かな」「友人、知人誰もいないけどやっていけるかな」と不安に思うことが多くありました。ただ、会議を重ねていく中で、いろんな方から、「新城はここがいいよ」「新城のこの飲食店おいしいよ」新城の魅力をたくさん伝えていただくことができ、1年経った今では、地元名古屋の友人に新城の観光なら任せてといえるようになったと思います。

私が所属していた観光PR委員会では、名古屋市の名東区や長久手市の、お子様連れのご家族に新城に来ていただいて、キャンプを楽しんでいただき、帰っていただくという事業を考えて参りました。その中で、どうやったら子供だけじゃなくて、家族全員に楽しんでいただけるのか。また、どのようにしたら、もう一度新城にきたいと思わせることができるのか。1人で頭を悩ませてしまう場面も多くありました。ただ三人寄れば文殊の知恵という言葉があるように、その時に1人で考え込むのではなく、いろいろな他の委員の方の意見を尋ねてみたりすることで、最終的にはよりよい政策が打ち出せたかなと思います。

私はこの若者議会に携わった1年間を通じて、他の方の意見に賛同して、その意見の意図や価値感を考える、見抜く力が伸びたかなと思います。また、他の方の意見に対して、「その意見いいよね」とただ賛同するだけではなく、「その意見いいよね。ではもっとこうしてもっとこうよくなんじゃないか」と自分の考えを、プラスして返して他の方が言った意見がもっとより良くなるように応用できる力が身についたと思います。

今年は、新型コロナウイルスのこともあり、なかなか思うように会議が進めなかったことも多々あると思いますが、そんなときこそ若

者議会に携わる多くの方々のおかげで、各委員会とてもいい政策が打ち出せたのかなと思います。

最後に、このような貴重で濃い1年間を与えてくださった。市役所の方々、メンターさん、市役所職員、また、第6期若者議会委員会、若者議会に携わる多くの方々にお礼を申しあげたいと思います。

ありがとうございました。

以上で私、矢口誠一郎の1年の振り返りを終えさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

○市園響議長 ありがとうございました。次に脇田美雨（わきた みう）委員です。よろしくをお願いします。

○脇田美雨委員 駅前商店街開発委員の脇田美雨です。

私は友人に誘われて若者議会に入りました。誘われた当時は入るか悩んでいましたが、新しい何かを始めてみたいと思い、入ることを決断しました。しかし、私は若者議会がどういったものかよくわからず、たくさんの不安がありました。学校の用事で会議に参加しなかったら怒られるんじゃないか。話についていけなかったら飽きられるんじゃないか。見当違いのことをしゃべってしまうんじゃないかなどなど、悩んでいました。初めての会議ではみんな緊張しながらも、自分の意見をはっきりと発言していましたが、私はうまくしゃべることができませんでした。自分が場違いな気がして、不安になることもありました。会議を重ねるたびにその不安はなくなりました。私が心配していたようなことは一切なく、雰囲気も明るく、意見が出しやすい楽しいものでした。

会議は楽しくもありましたが、もちろん難しいこともありました。意見がなかなか出ず、会議が進まない時や、自分たちの考えが思うようにいかないときもありました。そのたび

に、みんなで頭を抱えて悩みましたが、何とか政策を形にすることができました。政策を作ることは難しいことだろうとは思っていたけれど、ここまで難しいとは思いませんでした。私は高校3年生で生徒会活動をやっていました。学校の生徒会活動で何かを提案する時は、先生たちがフォローをしてくれたので、比較的簡単に提案することができました。しかし、政策となるとメリット・デメリットを考えたり、市の方の意見を取り入れたり、政策案が通らない場合の想定をしたりと、一つの政策を作るまでに様々なことを考える必要がありました。大変だなと思いつつも、自分たちがやっていることはすごいことなんだなと実感することができました。

1年を通して、若者議会からはたくさんの経験を得ることができました。私は4月から、洋菓子の専門学校に通います。お菓子づくりと政策を考えることは似ていると感じます。失敗を重ねながらも、誰かのために何かを作りたいと感じることや、いろんな人から意見をもらいながら、良くしていくことなど、たくさん共通点があると思います。若者議会での経験を、専門学校でも生かしていきたいと考えています。

去年の4月、若者委員会に入るという決断をしてよかったです。この議会のおかげで、とても楽しい1年になりました。

ありがとうございました。以上です。ご清聴ありがとうございました。

○市園響議長 ありがとうございました。次に井上文誉（いのうえ ふみたか）委員です。よろしくお願いします。

○井上文誉委員 移住定住委員会の井上文誉です。僕は第5期若者議会から委員として活動してきて、その1年を通して身につけることのできた経験を役に立てたいという思いから、移住定住委員会の委員長をやらせていただきました。

自分は第5期若者議会では、情報発信委員会で活動させていただきました。その1年間活動をした中でよかった点や、少し今でも後悔している点などがあり、それを少しでも第6期若者議会に活用することができたらと思いつながら活動をしてきました。やはり委員長となると、いろいろとやらないといけないことが増えると感じ少し不安を持っていました。ですが、移住定住委員会のメンバーやメンター、職員の方々にサポートしていただいたおかげで、自分のミスをカバーしてもらって何とか1年間やっていけたと思っています。特に移住定住委員会のメンバーにはとても感謝しています。

また、移住定住というテーマを選んだことから多くのことを学ぶことができました。前期では、情報発信委員会に所属し活動していた中で、新城市の観光地や他の地域の方々に広めたいこと、良いところを学ぶことができました。さらに、移住定住委員会で活動していく中で、その時には気づくことができなかった、新城市に住むという観点から考えたときの良い点、お勧めしたい点をたくさん見つけることができました。新城市には他の地域にはない特徴も多々あり、多くの人々にそのお勧めしたいところを広めていきたいと考えるよい機会になりました。

前期、今期と約2年間若者議会に携わってきましたが、特にこの第6期若者議会では、委員長やZOOMでの会議など、初めてのことを多く経験することができ、とてもよい経験になったと思っています。

1年間、本当にありがとうございました。以上で終わります。

○市園響議長 ありがとうございました。次に山本彩生（やまもと さいき）委員です。よろしくお願いします。

○山本彩生委員 国際交流委員会の山本彩生です。

私は今年度若者議会2年目でした。1年目である昨年はとにかく必死でした。自分が今まであまり考えたことの無いような分野の政策検討、大学生や大人との意見交換。昨年は必死にやって経験を積んだおかげで今年は少し余裕をもってやる事が出来たのではないかと考えています。考えていた政策は2年間で違いましたが、昨年の経験はとても役に立ちました。新城市について知ることは新城市について考える上でどんなものにも応用できるんだなと感じました。これからは今以上にずっと新城市について知っていききたいです。

また、私は全国まちづくり若者サミットにも参加させていただきました。全国の若者団体と交流し、意見交換することは中々できない経験だと思います。意見交換の中で、ほかの団体の方から、「新城市ってすごい！若者議会ってすごい！」と何回も言っていただきました。自分では、日々やってる中でこれで合っているのか、しっかり政策を検討できているのかと不安になることが多いです。しかし、外に出た時に若者議会の活動を認めてくださる方がいたのはとても嬉しかったです。それだけでなく、「高校生なのにこれだけ考えられてるのはすごいよ。中々できることじゃない。」とも言っていただくことができました。こう言っていただけたのは間違いなく若者議会のおかげです。

若者議会で、今まで考えてこなかった新城市について考え、自分と違う視点をもった人と意見交換をしたからこそ自分の考えの幅が広がったと思います。

若者議会は自分も楽しく色々なことを経験出来る最高の場所です。若者議会の魅力は言葉では言い表すことが出来ません。若者議会が大好きです！成長できる場所、視野が広がる場所を作ってくださった新城市には感謝しかありません。本当にありがとうございました。2年間の若者議会での経験を生かしてこれからもさまざまなことに挑戦し頑張り、いず

れは新城市に若者議会での経験を還元出来るような取り組みをしていきたいと思っています。以上です。

○市園響議長 ありがとうございます。次に益子アイメ（ますこ あいめ）委員です。よろしく申し上げます。

○益子アイメ委員 国際交流委員会の益子アイメです。

私は、若者議会に参加して、2年目となります。昨年度は情報発信委員会に所属しており、新城の良いところ、新城外に発信していく活動をさせていただきました。ですが、今年度は新城市内に目を向けて、年々増えつつある外国人のサポートをする活動をしたと考えてました。

私が国際交流委員会として、活動する一番大きなきっかけとなったのは母です。母は数年前から、新城市内の外国人のサポートを行っており、今年度は新城市内の小中学校の外国人生徒のサポートをしてきました。私自身、日本人ではありませんが、幼稚園のころから日本の学校に通っているため、特に何か困ったことはありません。ですが、周りの外国人を見て、母の話を聞いていると、まだまだ外国人が暮らしやすいまちではないなと感じました。学校から届く連絡の意味がわからない。地域の方々とのコミュニケーションが取れない。そういった問題を、どうにかして解決したいなと思いました。ですが、そんな大きな問題を高校生に何が出来るのだろうかと思うことがありました。国際交流委員会の他の委員と一緒に、この問題について考えていく中で、まずはお互いについて知ることが大切だと思いました。

今年度の若者議会の活動を通して、私が一番大きく感じたのは、どんなに大きな問題でも少しずつ、まずはその問題をよく知ることが大切だということです。どんな問題でも小さな一歩を踏み出していけば、仲間と一緒に

解決することができる。高校生にでもできることはあるということを知りました。

そんな学びの場、成長できる場を与えてくださった若者議会には感謝しかありません。

1年間ありがとうございました。

○市園響議長 ありがとうございます。次に城所邑衣（きどころ さとえ）委員です。よろしくお願いします。

○城所邑衣委員 城所邑衣です。

私はこの1年間観光PR委員会の委員長として活動してきました。入った当初は、高校生になったばかり。会議をどのように進めていくのかがわからない。コロナウイルスが広まったこともあり、不安なことばかりでした。しかし、実際に活動していくと想像していたよりも雰囲気は暖かく、落ち着いて会議をすることができました。そして、観光PR委員会の代表として市長答申で発表したり、富田林市の方々とZOOMを使い、オンラインで交流したりと、とても貴重な経験をすることができました。

入って当初の私は自分に自信がなく、皆の前で発表することがあまり得意ではありませんでした。しかし、何度も会議に参加していくうちに、発言を受けれてくれることに安心し、発言することへの怖さがなくなり、自分の意見に自信を持って話せること話せるようになりました。若者議会に入ってから、周りの方から今までより明るくなったねと言われることが増えたように感じます。ここまで自分を変えることができたのは、この若者議会のおかげです。

事務局や市役所の方々、メンターや役員の皆様、ありがとうございました。このたくさんの方々の経験を、今後の人生に生かしていきたいと思えます。

1年間、本当にありがとうございました。

○市園響議長 ありがとうございます。次に佐々木香奈実（ささき かなみ）市外委員

です。よろしくお願いします。

○佐々木香奈実市外委員 皆さん、台湾からこんばんは。佐々木香奈実です。

私はこの1年間、市外委員を務めさせていただきました。この1年間の活動を通してよかったと思う点が3点あったのでお伝えします。

まず1点目はZOOMでの会議が増えたことです。私は現在台湾の大学に通っています。なので台湾に来てからは、新城に関わりたい、若者議会に関わりたい、というのもずっと我慢していました。でもこうして今期新型コロナウイルスの影響もあってZOOMでの会議も増え、海外からでも新城のために若者議会のために何かすることができて本当にうれしかったです。

2点目は、私は今年で3年目の若者議会になったのですが、2期、3期で高校生として参加をしていたとき周りの自分の年上の人からたくさんの方のことを学べて、本当に成長の場だなあと感じていました。なので6期に立候補したときに、私もあのときみたいに高校生の子たちにいい影響を与えられるようにしたいなと意気込んでいたのですが、実際会議をしてみて、私の方が高校生のメンバーの子たちから学ぶことの方が多くて、本当にどの年代の人が参加しても、高校生とて、大学生として、社会人としてどの世代でも新しい発見があったりとか成長ができる場所なんだと改めて気づくことができました。

そして3点目は、この会議、1年間の話し合いを通して、同じ委員会の仲間たちと出会うことができたことです。私は今台湾にいたので日本人の友人、ましては自分より年下の子と関わることは本当に少ないです。でもこの1年間の活動を通してただの仲間ではなくて、一人の友人になれたのではないかと思います。若者議会はもちろん学びの場であり、成長の場であるのですが、それに加えて新しい出会いのある場所だと思いました。

これからも若者議会に関わる若者がどんどん増えて、そんなみんながどんどん成長してもらえたらうれしいなと思います。

1年間とっても楽しかったです。ありがとうございました。

○市園響議長 ありがとうございます。次に森下華（もりした はな）市外委員です。よろしくをお願いします。

○森下華市外委員 観PR委員会の森下華です。

私は幼い頃から新城市の史跡を観光することが好きで、新城市に興味を持っていました。また、若者議会に参加していた友人への憧れと友人の後押しもあり、参加することを決めました。市政やまちづくりを縁遠いものと感じていたため不安もありましたが、若者議会の活動はとてやりがいがあり、1年間の活動を通して自分を成長させることが出来たと思います。また新城市がもっと大好きになりました。

年齢や立場の違う人と話し合う機会があまり無かったため、自分には無い視点を知ることが出来るのはとても新鮮で、気づくことがたくさんありました。特に印象に残ったのは、「観光がさらなる魅力の向上につながる」ということです。委員会のメンバーと話し合う中で、訪れる人の輪が広がり、様々な人から意見をいただくことで事業を改善することができ、新城市の魅力の向上や成長につなげることができるという視点があることを知りました。このような、様々な意見に触れて視野を広げられることはとても貴重な経験だと思います。以前の自分より多角的な視点から物事を捉えられるようになったのではないかと思います。

また、私はこれまで観光は知名度を上げたり多くの人に訪れてもらったりすることを目的としていると考えていましたが、それだけではなく市の成長にも関わると知り、まちづ

くりの一環としての観光業に興味を持ちました。将来は、まちづくりや観光に関する職業に就き、若者議会での経験を活かしてまちと観光業の持続的な成長のためのサイクルをつくることを実現させたいと考えるようになりました。

私は自分の意見を伝えたりひとつのことを続けたりすることが苦手で、新しいことに挑戦しようと思っても始める前からやめてしまうことがありました。しかし、1年間多くのことを考えメンバーと話し合い、政策を形にできたことは大きな自信になりました。若者議会での経験と活動を通して得た自信を糧に、積極的に新たなことに挑戦していきたいと思います。また私が若者議会に参加することになったのは友人の存在でした。そして活動を通して多くの人と出会い、自分の世界を広げることができました。このような人とのつながりをこれからも大切にしていきたいと思います。

ありがとうございました。

○市園響議長 ありがとうございます。次に犬丸央都（いぬまる ひろと）市外委員です。よろしくをお願いします。

○犬丸央都市外委員 市外委員の犬丸央都です。

私は名古屋市に住んでいて、大学生になるまでは、新城市に来たことがありませんでした。そんな新城市で若者議会をやるきっかけになったのは、自分の大学の先輩であり、第2期、第3期で市外委員としてやられていた先輩がいるのですが、その先輩にやってみたらと言われたのがきっかけでした。最初は、訪れたことない新城市で若者議会をやるというのはとても心配でした。しかし、その一言の単純なきっかけだったのですが思い切ってチャレンジするっていうのは、今改めて大切だなんて思いました。

そして、その若者議会に入ってから、改め

て自分は新城市のことを全然知らないんだな
と思いました。私は、観光PR委員会に所属
していたのですが、その最初の委員会のとき
に他の委員の人たちが出す意見と、自分が思
っている意見というのは全然違いました。

「なんでそういう意見なんだろうな」とすご
く思いましたし、でもそれをあれがこうでこ
うなんだというように、自分で自分なりに解
釈して理解していくことで、新城のことをち
よっとでも知れたんじゃないかなと思いま
した。そのように、新城に住んでいるからこそ、
わかることと、住んでいないからわかること
っていう二つのことがあったと自分では思
いましたので、そこで初めて違いとしてあるか
らこそその意見が出すためじゃないかなと思
いました。

この1年自分は市外委員として、何ができ
るかというのを頭に置いてやってきました。
この市外委員として何ができるかというのを
考え、生かしていくというのは、とても難
しいことでした。しかし、それにはとてもや
りがいというものを感じました。

私は今大学で、まちづくりであったり、ジ
オグラフィックインフォメーションシステム、
ジオグラフィックインフォメーションサイ
エンスという、GISというものを学んでいま
す。この若者議会全体で学んできたこともそ
うですし、何よりも自分が所属していた観光
PR委員会で学んできたことというのは、こ
れからの自分の大学で学んでいくことにも
すごく、すごく生かせるんじゃないかなと思
っています。

改めて1年間ありがとうございました。以
上で終わります。ご清聴ありがとうございました。

○市園響議長 ありがとうございます。次
に伊禮愛実（いれい あいみ）市外委員です。
よろしくお祈りします。

○伊禮愛実市外委員 国際交流委員会の伊禮

愛実です。1年前の私は新しい環境をあまり
好みませんでした。

なので、挑戦するということに対して少し抵
抗がありました。

6期の若者議会に応募する時も少し不安でし
たが、5期に参加していたアイメさんが「一
緒にやる！」と言ってくれたので、今期の若
者議会そして国際交流委員会に参加するこ
うことができました。

私たちの委員会ではまずは新城の問題をみ
んなであげていき、それについてどう解決し
ていくか、たくさん話し合いました。自分が
体験した豊川万博を新城でもやったらおもしろ
いと思い提案したらメンバーのみんなが賛
成してくれて、そこから案が広がっていきま
した。そして、小イベント大イベントと様々
なことがきまっていきました。1年間の話し
合いを通し、改めて何かを決めるのは簡単じ
ゃないんだなと感じました。例えば、小イベ
ント大イベントをやる！と決めたのはいいけ
ど、じゃあ、何をするのか、どこでやるのか、
誰がやるのか、全てを決めなくてはいけなく、
会議がなかなか進まない時もありました。で
すが、柔軟な発想を持つ人が多く、意外な意
見が出たりして、あーこーゆー考え方もあ
るんだなとすごく勉強になることが多かった
です。意見を言うのは好きだけど、自分の思
いや考えをちゃんとした日本語で伝えるのが
苦手な私の話を、みんなしっかり聞いてく
れて、その意見をより面白くレベルアップ
してくれたメンバーには感謝しています。

市外委員という立場でしたが、国際交流委
員会の中でも外国人としての意見を出し、メ
ンバーみんなとの意見を合わせて良い事業を
考えられたのではないかと思います。来年に
は、このPON×2 Bonds事業が行われ
ると思いますが、コロナウイルスの感染が
少なくなり、延期や中止などにならずに無
事開催出来、他の委員の事業も全てうまく
いくことを願っています。

この1年間で、新しい仲間、友達、知り合いが増え、もっともっと続けたいという気持ちが強くなりました。みんなと離れたくないけど、お互いに切磋琢磨出来て良かったです。

改めて1年間ありがとうございました。以上です。

○市園響議長 ありがとうございました。次に永井陽真（ながい ようま）市外委員です。よろしくお祈いします。

○永井陽真市外委員 市外委員の永井陽真です。

私は、若者議会を経験して、重要だと感じたことが3つあります。

1つ目は、長期的な視点を持つことです。私は、駅前商店街開発委員会で新城駅前をテーマとした事業を行いました。事業の政策を考えていく段階で、5年後10年後の新城駅前や駅前周辺はどのようになっているのかを予測することや、どうなっていてほしいかを考えることが大切だとわかりました。特に新城駅前はリニューアル工事を現在行っており、工事が終わった後の5年後10年後の駅前の将来について委員会で考えたことは、とても意義があることだと思いました。長期的な視点を含め、多角的な視点で物事を考えることが非常に重要であるということ、実際の活動を通して改めて感じました。

2つ目は、何のために政策を行うのかという理由、目的を明確にすることです。何らかの問題があり、それを解決するために政策を実行するので、政策を検討する上での理由や目的は重要になります。目的、理由がまとまっていなかったり、会議の内容が本来の目的とずれていたりすると、政策の手段や内容が定まらないことになります。実際に私は会議を何回もしていくうちに、何のためにという理由や目的を意識することが少なくなり、委員会としても理由や目的の意識や共有が十分

ではなく、内容がなかなか決まらない時期もありました。そういう時には、委員全員で理由、目的を明確にして共有することで、内容の方向性を決めることができました。議論が行き詰まったり、内容がなかなか決まらなかったりした場合には、政策の対象者や目的を委員全員で共有して再確認することが大切だと感じました。

3つ目は繋がりです。繋がりとは駅前商店街開発委員会の政策のキーワードの一つになっています。私は若者議会の活動を通して、まちづくりの根幹は、人と人との繋がり、人と地域との繋がりだと感じました。特にこの1年間はコロナ禍であり、人と会うことを制限されていたので、人の繋がり的重要性をより感じることになりました。若者議会の委員を経験して、新城市の知らなかったことを知ることができ、また、今まで意識してこなかった物事について考えるきっかけができました。そして、多くの貴重な経験をさせていただきました。例えば、今現在行っているように、議場で話すということや、市議会議員の方々との意見交換、委員会の中でファシリテーターをしたことです。このような経験を学生のうちに、若者議会の活動を通してできたことは、自らの成長に繋がったと感じています。

私は市外委員ということもあり、ZOOMでの参加が多かったですが、事務局や他の委員の方々、メンターのサポートもあり、積極的に議論に参加することができました。この場を借りて、感謝します。ありがとうございました。

以上で終わります。ありがとうございました。

○市園響議長 ありがとうございました。最後に熊崎龍輝（くまざき りゅうき）副議長です。よろしくお祈いします。

○熊崎龍輝副議長 副議長の熊崎龍輝です。

私はこの1年間、若者議会の一員として活動させていただきました。こういった活動をするのは初めてで、「最初はどうかすればいいんだろう」や「しっかりとできるかな」など、戸惑いや不安に溢れていました。ですが、実際に活動が始まると事務局の方や他の委員さんたちが手助けをしてくださり、初めに感じていた不安などはすぐに取り払われていきました。これまで活動することができ、今こうしてこの場に立っていただけるのは、若者議会の関係者の皆様のおかげであると強く感じています。

私が若者議会を経験し得ることができたもの、その一つは、勇気であると思います。私は今まで前に立って何かをするということがあまりできませんでした。何か活動する際にも、周りの人の一歩後ろになって、代表となって何かをするというよりは、目立たない位置でひっそりと何かをするという性格でした。それは自分が代表になって、失敗したらどうしようという恐怖ばかりが私の心にあり、前に立ってみようという勇気が生まれなかったことが原因だと思います。しかし、この若者議会に入れたことで、自分も少しは変わることができたのかなと思います。少し前にも大勢の人の前で話す機会をいただきましたが、若者議会を経験する前の私にはそこで話す勇気はなかったと思います。若者議会に参加するかを悩んでいた時に、同じ高校に通う先輩がやってみたらいいよ。大丈夫。失敗しても周りの人が助けてくれるからと背中を押してくださり、他の委員の方や事務局の皆さんが心配しないで、みんなで助け合っていこうと、支えてくださったからこそ、この勇気を得ることができたのだと思います。

次に得ることができてよかったなど感じるものは、物事にはとらえ方が幾つもあり、人によって大きく変わることがあるということ、言葉だけでなく、肌で実感することができたことです。今までは同じ地域で育ち、同

じぐらいの年代の人と話すことがほとんどでした。そんな状況が変化したのも、若者議会に参加したからだと思います。同じ新城に住む委員さんでも、自分の住んでいる区と離れた区に住む方がいたり、市外委員さんたちは、新城とは違う場所に住んでいたりと、幅は広くあります。そして、年齢でも、今までは上にも下にも2年、それぐらい歳が違う人と話す機会が多かったのですが、委員さんの中でも、今までよりも広い年代の方々、そして市の職員の方や市議会の方々といった、今まで話す機会がなかった人とも意見を交換することができ、自分では気づくことができなかったこと。考えが及ばなかったこと存在を知ることができ、自分の物事に対するとらえ方、視野が大きく広がったと感じています。

こうして私に足りなかった様々なことを学ぶことができた若者議会にとっても感謝しています。この1年は大変なこともあったけれど、とても楽しかったこともまた事実です。

短い間ではありましたが、貴重な機会と楽しい時間をありがとうございました。

5. 市議会議長あいさつ

○市園響議長 ありがとうございます。それでは、続いてお忙しい中ご出席いただきました、鈴木市議会議長様からごあいさつをいただきたいと思います。

○鈴木達雄市議会議長 若者議会の委員の皆様、本当に今、皆さんの言葉を聞いて胸がいっぱいになってしまいました。本当に若者議会が新城にあってよかったなど、そんな思いでいっぱいでございます。そして、「これだから若者議会はやめられないぞ」というような気持ちも思いました。この皆さんの思いが、そして、この1年の元氣な活動が私ども新城市民にとって大きな力になってるなど実感したところであります。また、これからも皆さんがこの議会で得た経験を是非とも、次のステップに活かしていただければ、本当

に私たちも嬉しいなと思います。

今年は、やはりコロナが影響してリモート会議というものが多かったかなと思います。私たちはそれにあまり慣れないものですから、なかなか意見を言い合うということが難しい。やっぱり直接会って話をするのがいいなというなこと思いましたが、皆さんの世代になりますと、その辺は違和感なくというような気持ちで聞いていました。これからはやはり目の前で言う方だけではなくやはり全世界、それぞれの地域の人々の多くの違う意見を聞いて、このまちを考えていくということが大切だなと思います。

国際交流の事業を提案されておりましたけれども、その提案を聞いてもそのように考えました。

また、目の前の新城駅を綺麗で明るくして、この市を活気づけようという、その目の前の足元の事業を提案されたこと。これについても、本当に私納得といいでしょうか。やはり地域の人々が、その場所で生きていくという、そのもとになるものそこにあるんだなということを思いました。

また若者議会の運営に関してですね、この先の提案もしていただきました。その中の提案であります。会議の効率化であり、広報活動というような提案もありました。私どもの議会も、議会改革うんぬんというような、一生懸命、アピールしながらやろうとしてるわけでございますけれども、皆さんの提案が非常に私共にとっても使えるなということも受けとめました。参考にさせていただきたいと思えます。

この、私ども18人の議会議員がいますけれども、ここに見える21人皆さんが、この先このまま新城市議会の議員になっていただければ、もっとこの新城よくなっよくなるんじゃないかな。そんなことをほんと純粋に思ったところです。これからもこの1年の皆さんの経験、絶対に役に立つと思います。この経

験をぜひ生かして、これから皆さんの人生を豊かに、力強く歩いていただきたいなと思います。

そして、よく言えばこの新城市の力の一つに、なってこのまちを活気づけていただきたいなということも思いました。

本当に今日は、1年間皆さんの活動の報告を聞いて、私も勉強させていただきました。

ありがとうございました。終わります。

6. 市長あいさつ

○市園響議長 ありがとうございます。最後に、穂積市長からごあいさつをいただきたいと思えます。

○穂積亮次市長 第1回から15回を数える会議となりました。今日は最後の第6期若者議会の会議となるかと思えます。最初にこの議場でお会いしてから、1年経ちました。大変目まぐるしく動く1年でした。特に今年はコロナという、世界中の人々が直面するものを我々一人一人も同じように、直面をしながら、一步一步模索しながら進んできました。

私は今年で68歳になります。例えば、この中に17歳の方がおられるとすると、4倍の年を重ねたこととなりますけれども、68歳にとっての1年と17歳にとっての1年では、17歳にとっての1年の方が4倍も濃密で重たいものなんですね。特に皆さんの年代では、このコロナが与えた影響というのは、学校の学び、或いは職場のこと。それから周りの友人との関係、家族との関係、ひいては進路の選択にも大きな影響があったと思えます。時には、思い描いていた夢が実現できずに、或いは楽しみにしていた学校生活が送れずに1年を過ごしてしまった仲間もいるかもしれませぬ。その中でも、1年ずつ、また年を重ねながら、みんなで希望をつないでいくわけなんですけれども。その1年間を通して、皆さんが若者議会を通して、提案をしていただいた事業、そして若者議会を振り返っての

1年間の皆さんの思いというのが、今日この場でしっかりと表明され、また我々みんなが、心して聞かせてもらいました。そんな重みのある皆さんの一言一言だったのかなと思います。

私のある好きな海外のことわざでこんな言葉こんな意味のことがあるんですね。「もしも、君が大切なものを探したいならば、君の家の裏庭に行ってみなさい」裏庭で探せないものはどこに行っても探すことはできないよ、というそういう意味の、もうちょっとこうコンパクトな教訓めいた言葉なんですけども意味を言えばそういうことです。自分の半径、3m、10m、100mぐらいでしょうかね限度はね。その半径100mの中で探せる物、そこで見つけれられるものが、まず自分たち自身の宝物だということ、私もこの年になって改めて思いますし、皆さんもまた違う年代の目で、そのことに気づいてくれたのかなあと皆さんの発言を聞きながら思いました。

今年は、東日本大震災の10周年です。大きな災害が起きたときの命を分けるもの。助かる命助からない命、いろいろありますけれども、命を分けるもの。結局何でしょうか。少なくともその災害が起きたときに、今自分がどこに立っているか。どこに向かって歩けば、命が助かるだろう。誰の手を引いていけば、救える命があるだろうか。それは抽象的なことじゃなくて、身の回りの本当半径数メートルの中でのことなんですね。その半径数メートルの中に、災害対策の靴がちゃんと置いてあるだろうか。水があるだろうか。或いは、情報を得る手段がどっかにあるだろうか。これが、一瞬の命を分けてしまうわけですね。さっき言った、裏庭に探してないものがどこにもないよというのは、そういう意味であります。

今日は皆さん、ズーム会議、今日も台湾から参加していただいていますよね。遠く離れたところでも瞬時に時間や空間を越えられるよ

うな技術手段を我々は持っているわけです。そのために、このコロナ禍でもいろんなコミュニケーションができました。けれども、当たり前のように考えてみて、もし君たちの家にWi-Fi環境がなかったら、光ファイバーが通ってなかったら、手元にスマホやPCがなかったら、ズーム会議できますか、できませんよね。そこにも、半径1mの中に、自分の掘り所を持つてるかどうか、足場を持つてるかどうかで全然違ってきます。Wi-Fiを持つてない方にとっては、ZOOM会議、インターネット、世界のことってというのは、無きに等しいものです。しかし我々はみんな心して、新都市内に光ファイバー網を引き、そして学校のオンライン学習機能を整えてきました。そういうのを一つ一つの積み重ねの中で、世界が瞬時に一瞬のうちに結びついて、遠く離れていても、意思疎通ができるような環境が整っている。

そして、君たち皆さんは新城とはどういうまちかというのを、自分の裏庭を歩くように探し求めて、そして自分なりの答えをこの1年の中で獲得してきたと思うんですね。それが、これからの人生に繋がり、そして世界の人々と繋がっていく。そういう、新都市の若者議会であります。

第1回の若者議会のメンバーたちが何をやったか。自分たちは新城のことを、余りにも知らなさすぎる。自分の裏庭のことを、余りにも知らなさすぎる。その知らなさすぎるのが世界に行くと、自分の考えは何一つ通用しないってということも、第1期の若者議会の皆さんが、直面、突き当たったことですよね。そして新城のことを知るために足を運び、人の話を聞き、そして自分の知らないところに行き、門をたたき、そして見聞を広めて自分たちの身の回りがどうなってるのかを知ること、初めてこの世界の実像というのを実感を持つてつかむことができる。

半径3mの周りにいる人を思い浮かべてく

ださい。皆さんの宝物だと思うんですね。友達であり、家族であり、先生であり、弟や妹であったりすると思います。その人々を大切にできずに、抽象的人間を大切にすることもできませんし、世界を良くすることもできません。新城市の若者議会は、小さな5万人足らずの小さなまちの物語ですけれども、その小さなまちが、小さなまちの小さな青年たちが、小さなまちのことを、小さな心で小さな目で、小さな足で、見ることで、世界と繋がることが初めてできます。それはどの場においても同じことだと思います。ですのでどうかこれからいろいろな場で活躍していくと思いますが、裏庭にあるもの、半径3mにある宝物を大切に、それを自分の足場にしっかりと固めて、そしてそこから通じていく世界、日本中、いろんな人たちとの繋がりをつなげていただきたいなと思います。

新城市は、総合計画というのを持ってまして、第二期の総合計画は、「つながる力 豊かさ開拓 山の湊しんしろ」これが私たちの目指すまちの姿だと言っています。繋がるということがどれほど大切なこともまた、この1年で我々実感をしていました。繋がるためにはどうするのか。抽象的なことではなくて、周りの人を誘い、手をつなぎ、声をかけ、そしてその繋がりを、またそこから広めていってもらうように。第7期はこの4月からまた多くの委員を募集します。君たちの身の回りにいる、半径3m以内にいる友達をぜひまた誘っていただいたり、兄弟に声をかけてもらったり、そしてその子たちにまたその半径3mの人たちに声をかけてもらい、そしてその人たちそれぞれに裏庭にある宝物を探してもらえるように、それを寄せ集めたときに、新城のまちがまた新しい輝きを持てるかなというふうに思いました。

この1年間本当に皆さんご苦労様でしたお疲れ様でした。貴重な体験をしていただけたと思いますけれども、それをさらに多くの人

に伝えて広めていただけるように、自分たちの自分の心の中にともった新しい火を、次の人々にも確実に引き渡してもらえるように頑張っていたきたいと思います。

多くの仲間を支えられて、皆さんが感謝の言葉を述べてもらいました。ありがとうございましたと素直にいえる皆さん、本当に素晴らしいと思います。これからもその気持ちをずっと持ち続けて、願わくは68歳になっても、同じように若い気持ちでいられるようにしていただきたいと思います。私も皆さんに負けないように若い気持ちで市政に携わっていききたいと思います。

一緒に頑張っていきましょう。ありがとうございました。

○市園響議長 ありがとうございました。議長としての私を支えてくださった皆様、本当に感謝しております。

この第6期のメンバーが初めて顔を合わせたのは、オンライン上でした。このメンバーで新たな政策を作っていくんだという志を持ちながらも、どこか、この先どうなるのか、全く予想のつかない状況で、満足のいく活動はできるのだろうかといった不安を抱えていました。きっと、すぐに対面での会議ができるだろうという思いもありました。ところが、なかなか収まらないどころか、新城市での感染も拡大していき長い間、オンラインでの会議を余儀なくされました。

初めの頃は、実際に会ったこともないメンバーとなれない機器を使っただけの会議は大変なことも多くありました。しかし、手探りの中、こうして4つの委員会が無事に政策をまとめることができたことは、本当に素晴らしいことだと思います。

そして、今年は私が当初から切望していた国際交流委員会を立ち上げ、議論できたことをとてもうれしく思います。この委員会への参加を通して、今まで見えてこなかった外国籍市民の声、よりはっきりと、日本人と外国

人の中にある壁を知ることができました。国際社会にありながらも、分断の時代と言われる昨今に、このような問題が身近にあることを知り、その原因や解決策について議論ができたことは、大変貴重で価値のあることだと考えています。私たちが、解決策の一つとして考えたイベント開催。日本人と外国人が触れ合うきっかけ、異文化に触れ合うきっかけになるよう、大イベントと継続的な小イベントを提案しました。来年度の開催を目標に考えていますが、やはりこのコロナ禍、確実に実現できるかは言いがたいかもしれません。しかし、その中でも、支援を必要としている人がいます。一刻も早く、コロナが収束し、イベントが開催できることを願うとともに、来期の委員や市の方々にも、ぜひ国際交流についての議論を受け継いでいただけることを願っています。

この若者議会は、素敵な出会い、素敵な考え、そして素敵な経験を私に与えてくださいました。全員で顔を合わせられる機会が非常に少なかった今期ですが、ぜひとも、この繋がり、この経験を将来の進路に生かし、また新城市に携われたらと思います。

今期、そして前期合わせて2年間、本当にお世話になりました。ありがとうございました。

これをもちまして、第15回新城市若者議会を閉会させていただきます。

閉 会 午後9時